

## 朝日大学病院医療事故の公表について（包括的公表）

朝日大学病院の理念の一つに「安全で質の高い医療の提供」があります。当院では理念に基づき医療事故防止のため様々な取組を行っていますが、この様々な取組に加えて院内で発生した医療事故を自発的に公表することが「社会」から求められています。そこで当院では、院内・院外への情報提供や医療の透明性・信頼性を資する場として定めた医療事故公表基準に基づき 2017 年度に発生した当院の医療事故をここに公表します。

2018 年 6 月

朝日大学病院  
病院長 大橋 宏重

期 間 : 2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日

### 【医療過誤による患者影響レベル 3b 以上の公表件数と概要】

公表件数 : 5 件

分類・レベル	透析・3b
事例	浮腫のある患者に対し、毎回 ECUM で除水 2400ml と指示を受けた。透析部門システムに基礎体重は未設定、患者メモ欄に除水 2400ml と入力した。7 回目の ECUM 中に血圧低下があり、基礎体重が設定されていたが患者メモの「除水 2400ml」の削除が忘れられていた。翌日の ECUM 時に透析装置、血液浄化記録に基礎体重が表記されていたが、「毎回 2400ml 除水」との思い込み、電子カルテの医師指示抽出不備とが重なり、先週の除水指示のまま ECUM を行った。無理な除水により血圧が低下しや高度徐脈となり、HCU へ入院となった。
再発防止策	<ul style="list-style-type: none"><li>・思い込みの対策として、血液浄化伝票の基礎体重欄を変更日のみ、赤く表示することとした。</li><li>・医師指示の内容を透析部門システムの患者メモ欄に転記することを止め、必ず電子カルテで透析指示を全シートから確認するように周知した。</li><li>・臨時指示があればコメント欄に「臨時指示あり」と表示するシステムに変更し、全患者の血液浄化伝票に「臨時指示確認」の透析前チェック項目を追加した。</li></ul>
分類・レベル	手術・3b
事例	透析用バスキュラカテーテルを左内頸静脈経由に留置したが、実際には、内頸静脈を貫通して総頸動脈へ留置されていた。全身麻酔下にてカテーテル抜去術が施行された。
再発防止策	<ul style="list-style-type: none"><li>・透析用バスキュラカテーテルを留置する際は、必ず手技前にエコーで血管を評価することとする。</li><li>・血管の選択は、頸部では右内頸静脈を第一選択とし、可能であれば重度合併症の少ない大腿静脈を優先的に選択する。</li></ul>

分類・レベル	手術・3b
事例	人工股関節置換術後のリハビリテーション中に股関節が前方脱臼した。反復性の脱臼であったため再置換し、以後は脱臼しなくなった。
再発防止策	初回手術中の股関節に異常な不安定性はなかったが、再置換時には軟部組織の緊張が弱く、易脱臼性があった。術中に軟部組織の緊張に対するさらなる注意が必要である。
分類・レベル	薬物・5
事例	右下腿骨骨折を受傷し、救急搬送された患者が即日入院となった。抗精神病薬を飲んでいて、本人から聴取できず、結果的に内服できていなかった。入院4日目に悪性症候群を発症し、多臓器不全となり死亡した。
再発防止策	患者からは定期薬は飲んでいないとのことであったため、それ以上の聴取はできなかった。身内や後見人もなく、関係者から悪性症候群を発症しやすい抗精神病薬を服薬していることを聴取する方法がなかった。このような精神病患者がいることを周知し、警鐘を鳴らすことで再発防止につなげることにした。
分類・レベル	手術・3b
事例	右内鼠径ヘルニアに対する前方アプローチでの手術に際し、巨大な膀胱ヘルニアがあることに気づかず、膀胱壁を一部切り込み、他の尿路に問題がないことを確認し、膀胱壁を縫合した。
再発防止策	手術の基本にたちかえり、解剖をよく理解し、慎重に手術を行う。特に、長い年月をかけて大きくなった鼠径ヘルニアの手術においては、周囲臓器との位置関係をよく確認して操作することを徹底する。